



## はじめに

副会長 藤井孝一

「いま、何故、改革か」

現在、我が国では、改革の名のもとに、さまざまな事柄がなされています。企業の縮小、リストラ、勝ち残りのための方策、官から民へ、数えあげたらきりがありません。バブル期に我も我もと、バスに乗り遅れないよう過剰投資したように、改革を口にしないと時代にとり残される感じです。勿論、むだを省いて、新しい方法で物事を実行することは必要です。又新しい分野を開拓して行くことは必要だと思います。昔から日本人は一つの事を決めたら、同じように実行しないと、とり残されると思いがちのところがあると思います。一つの方向性だけでよいのでしょうか、別の考えがあってもよいのではないのでしょうか。昨今の建築界の我々の取り巻く状況の中で、一般住宅の外壁のサイディングの問題があります。サイディングそれ自体は、工法も簡易であり、多量に工場で作るので材料も安く又防火性にすぐれており、なかなかよい材料だと思います。そして内部においては、石膏ボードの上にクロス貼とする簡易工法が進んで、環境問題を起こしました。最近、シックハウスに対する法律ができましたが、完全に後手にまわっています。コストを下げるだけのために内部・外部共乾式工法にするのは大変問題があると思います。建築の巾を狭くするばかりではないでしょうか。コストは大変重要な点であり、むだな点はなるべく省いて合理化することは、重要であると思いますが、建築の良さを取り入れた在来工法も選択肢に加えられるように頑張ってみようではありませんか。コストと云う改革から取り残されることが一部にあってもよいのではないかと思います。今年の春、茅葺き民家の里である在原民家集落を訪れました。琵琶湖の西北、JR湖西線マキノ駅から国道161号線を経て自動車で30分ほど山間部を抜けると茅葺きの民家が20軒ほどあります。平安時代の歌人、在原業平の伝承が残る地域で、江戸時代からの民家もあり、大昔にタイムスリップしたような部落です。茅葺き民家のほとんどが、住居として使われており、観光化していないので、落ちついた集落には懐かしい故郷が思い出されます。ひっそりと建つ民家の回りは小川が流れ、小鳥の音が聞こえてうっとりと聞き入ってしまいそうである。これだけの

茅葺きの民家が住居として使用されているのは珍しいと思います。心が現われる思いがして、有意義な一日でした。現在、茅葺きの家などなかなかできませんが、古い伝統を守っていくこともあってもよいのではないのでしょうか。

## 今回の記事

- 今後の予定・お知らせ
- 建物使いごち調査のこと
- 東海北陸ブロック会議
- 平成16年度全国女性建築士連絡協議会報告1
- 平成16年度全国女性建築士連絡協議会報告2
- 分科会
- 編集後記

## 今後の予定・お知らせ

- ◆ 第47回建築士会全国大会和歌山大会  
日時：10月21日(木)・22日(金)  
会場：和歌山ビックエール

## 建物使いごち調査のこと

5月30日 建物調査(わかさプラザ)  
蒸し暑い午後、関市の生涯学習施設「わかさプラザ」での建物調査に参加しました。前半、エントランス前に陣取り、来館者に精一杯の笑顔でアンケート協力を呼びかけたのですが、かなり怪しかったようで、大半の人に無視されて苦戦。そこで、喫煙所などで休憩中の人などをターゲットに、個別に協力を依頼する戦法にかえて再度挑戦。なんとか調査を完了することができました。今回の調査での反省点としては、やはり見目は大事だということですね。街でアンケート用紙らしきものを持った人が笑顔で近づいてきたら、私も逃げます。

調査の目的、実施団体名をきちんと掲げ、怪しくないことをアピールする必要があると思いました。

あとは、アンケートの記入自体に少し手間がかかったようで、アンケート後半「まあいいや、分かんないから適当で」といった記入をされる方も多かったように思いました。例えばエントランス付近でエントランス部分のみの使い心地調査、お手洗い付近でそのお手洗いのみの使い心地調査、と分けて実施するのも一つの方法かな、と思いました。今回の調査後、街でアンケートを頼まれたら、取りあえず何のアンケートで実施主体はどこかを確認してから断ろうと堅く心に誓いながらわかさプラザを後にした私でした。

大上 さおり



(ブロック会議の風景)

## ■ ブロック事業発表 (建物使いごち調査)

来年2月に開催される後期ブロック会議(愛知県)では建物調査の発表をします。全員で参加しましょう!

平成17年2月19・20日(名古屋市)

皆さん、手帳に書いて予定にいれといてください。

## ■ 東海北陸 ブロック会議

建築士会東海北陸ブロック会 女性建築士協議会  
平成16年度前期ブロック(富山)会議報告

6月24日(土)富山市の国際会議場大手町フォーラムで開催された女性建築士連絡協議会に参加しました。

協議会では各県が今年度の活動報告、及び活動予定が報告されました。各県の活動は概ね、住まいかた、健康・環境、編集(らくだ発行のようなもの)の三分野になっています。来年の2月19日、20日には後期定例会議が愛知で開催され岐阜のブロック事業発表が控えています。各県のみなさんに楽しみにしています。」と言われ、冷や汗をかいてまいりました。

今回は協議会終了後、青年と合流、または見学会の選択が出来ましたので、私たちは「民俗民芸村」の見学会に参加しました。緑豊かな丘陵地に10余りの資料館、民芸館、美術館が点在し森林浴をしながら、富山の歴史や文化に触れることができました。

懇親会では土地の食材をふんだんに使った料理が並び、しろえび、黒作り(いかの塩辛+いか墨)、ます寿司、蛸烏賊などを堪能しました。

松村久美子

## 東海北陸ブロック会 女性建築士協議会 平成16年度 前期定期会議に参加して

平成16年6月26日(土)富山県富山市国際会議場にて午後1時半より開催されました。参加人数は42名でした。愛知・福井・三重・石川・岐阜・富山の各県の事業計画及び報告をしました。どの県も交流研修会を行っているが、その他の見学会・セミナーは、各県まちまちでした。岐阜県は、まだ活動しているようですが、もっといろいろな人達が加われば面白い企画がでて、より活動的になるのではないのでしょうか?

会議終了後、富山市の史跡の富山市民族村を見学しました。なかでも売薬資料館は300年余りの歴史を持つ「富山売薬」関係の資料を保存活用される為に設置されたらしく、展示室には、売薬行商に用いた用具を展示していました。懐かしいお土産品の紙風船等もありました。

夜の懇親会では、富山の方々の気遣いで郷土料理のもてなしを受け、富山の方言を教えていただき交流を深めてきました。

翌日は、参加した3人で富山の人達より観光客の方が知っている富山市内の池田屋(薬屋)の2階で薬膳料理を食べて見ました。

食前酒(野草酒)・はと麦のサラダ仕立て・山芋の和風スフレ・白海老と加賀太胡瓜緑豆あんかけ 野草の天ぷら 高麗人参と鶏団子のスープ 黒米の山菜おこわ 香の物 特製デザート

以上で3150円でした。山芋のスフレがとてもおいしかったです。お腹いっぱい食べて満足度100%でした。富山へ行ったら一度味わってみてください。

津川 文江

■ 平成 16 年全国女性建築士連絡協議会報告

「地域と共生する住環境づくり」  
 ～ 美しいひとまち・暮らし ～  
 日時：平成 16 年 7 月 16 日（金）～ 17 日（土）  
 於：建築会館ホール）  
 参加者 350 名（各県委員長 46 名、オブザーバー 286 名、  
 来賓、講師、連合会委員ほか 18 名）  
 入手資料（冊子）  
 ・ 専攻建築士制度と継続能力開発制度の定着に向けて（2004 レポート）  
 ・ ユニバーサルデザインの建物をめざして  
 （500 円で販売中・10 冊購入してきました）  
 （大阪府建築士会女性部会がバリアフリー  
 ブックの改訂版を 500 円で売ってました）

全体会資料

- ・ 全国女性建築士連絡協議会プログラム
- ・ 平成 16 年全国女性建築士連絡協議会要旨集
- ・ 景観法について

プログラム

開会式 連合会会長 宮本忠長氏の挨拶と連合会  
 女性委員長 小谷部育子氏の挨拶  
 （建築士の有資格者は全国で約 97 万人、現役は 60 万人  
 くらい、建築士会会員は 115,000 人くらい  
 女性は 6600 人、活動中は 800）

活動報告

講演 「景観三法」講師 国土交通省住宅局市街地建  
 築課企画専門官 青木伊知郎氏

パネルディスカッション  
 テーマ 「美しいひとまち・暮らし」  
 全国委員長会議（17：15～18：45）

分科会（2 日目）

- A 「景観とまちづくり」：コメンテータ （東京）
- B 「環境共生」 " （愛媛）
- C 「健康住宅」 " （宮城・岡山・佐賀）
- D 「建築士の責任」 " （栃木・大阪）
- E 「建築物の再生活用」 " （神奈川・福岡）
- F 「子供住環境」 " （福島・兵庫）
- G 「高齢者会」 " （大阪・高知）
- H 「集まって住む」 " （東京）

全体会（各分科会報告及び、全体総評）

全体会において各分科会の内容報告が手短になされた。それぞれの分科会で、非常に活発に議論・意見交換された様子が、短い時間の中ではあったが（3 分×8 分科会）各司会者から報告された。

総評は奈良士会の岡田さん（岡田さんは岐阜の出身で現在、奈良士会の副会長である）からなされた。「安全な暮らし・まちづくり」は永遠のテーマであり、世の中では減少・縮小が一般的なのに対し、全建女では増加・拡大とも言える頑張り・努力がなされていると言う総評がされた。

全国委員長会議報告

- ・ 和歌山大会・愛知大会についての説明 報告があった。また、専攻建築士制度と CPD の定着についての報告、e ラーニングの報告（現在登録者が非常に少なく数 10 名！）があった。
- ・ 平成 16 年度全建女アピール（別紙）
- ・ 平成 17 年度全建女の案内（愛知大会との日程調整により開催は H17 年 12 月 2・3 日に香川県高松市で開催。開催テーマについては今後、詰めていく）
- ・ 連合会青年委員会・女性委員会の統合案を議論。各委員長の意見をアンケートで後日報告
- ・ H19 の開催地の希望について（各年で地方開催のため、H18 は東京）



（開会式の風景）

## ■ 平成 16 年全国女性建築士連絡協議会報告 2

### 講演「景観三法」報告

景観法成立(6.18)により、景観計画制度・景観地区制度が創設され、関連法も改正された。主なものとして、屋外広告物法、都市緑地保全法(都市緑地法)が改正され、合わせて景観緑三法と言われる。都市、農山漁村等における良好な景観の形成を図るため、基本理念及び国民・事業者・行政の責務を明確化するとともに、規制・支援等所要の措置を講ずる我が国で初めての景観についての総合的な法律である。(河内)

### パネルディスカッション

テーマ「美しいひとまち・くらし」

コーディネーター

森 まゆみ 谷中 根津 千駄木 編集人

パネリスト

永井多恵子 世田谷文化生活情報センター館長  
小泉 和子 昭和のくらし博物館館長  
富田 玲子 象設計集団

#### 永井多恵子

世田谷文化生活情報センターの活動の中で生活工房という活動を行っており生活をデザインという観点から考える事をしています。美しい物への憧れ、デザインに対する認識、持続可能なデザインを考えるようにしています。しかし何をするにしてもお金がかかり資金集めに苦労しています。

#### 小泉 和子

古い建物の生かしかた。ホームではなくハウス戦後否定されて生活:高度成長期以前の暮らし、家電以前の暮らし、個室がない暮らし、家事が多い暮らし、畳の暮らし等(昭和のくらし博物館の説明をされるのにテレビで放映された物を10分にまとめて映像で見せて頂きました。)

#### 富田 玲子

気持ちのよい建物を造ろうと思っています。(スライド機2台を同時に使い2枚の写真を映写して今までの作品の解説をして頂きました。)

### 全体の話し合い

- ・ 居心地が良い、気持ちが良い、自然の色は和む。
- ・ 住宅地にファッションブルな色があるとギョツとする。
- ・ 景観法が出来て良かったと思う
- ・ 日本人の暮らしの中で継承されてきた物がある、素材が揃っており色も揃っていた。
- ・ 日本の古い家は接客を中心に考えられていたが、現代では家族が中心になっている。

- ・ 建物が悪いのではなく、社会のあり方が建物を歪めていた。
- ・ 社会が変われば、歪みが正される。
- ・ 戦後の民主主義になり、社会の動きが変わったので建物が変わってきた。
- ・ 住宅のあり方を全否定しなくても良かったのではないか
- ・ 地球環境破壊をしない生活を見直す。風通しが良く冬暖かい。
- ・ 床座と椅子座の融合を考える。
- ・ 全部工業化によって進められていることがいいのか。
- ・ 近代化をするにあたり 取捨選択をしなすぎたのではないか。
- ・ 不便さを排除しようとしすぎているのではないか。
- ・ 形式だけを取り入れた。
- ・ 戦後住宅のモデルになっていた物が、エネルギーを浪費しすぎる物であった。
- ・ 街全体のプランナーが必要。
- ・ 昔の日本の家が気持ちが良いのは、五感がフル回転して働いているから気持ちが良いなる。
- ・ 現代は五感が働かない生活になっている。
- ・ 昔は貧乏だったから、貧乏文化を洗練して、日本の文化が出来ていた。現代は貧乏文化を捨ててしまった。
- ・ 集合住宅についてはちょっとしたゆとりのあるデザインを心がけて欲しい。
- ・ 個人の利益だけでなく、コミュニティーの利益も考えていく必要があるのではないのか。
- ・ 個人の快適さだけを求めすぎてきているのではないか。
- ・ 社会経済の変容によって生活も変わっていく。
- ・ 知性、感性が拒否する物を作るべきではない。



(協議会の風景)

## ■ 分科会

### テーマ 「健康住宅」

#### コメンテーター

三原ユキ江 (佐賀) 山名千代 (岡山) 星ひとみ (宮城会)  
千葉県建築士会

シックハウス対策に関するアンケート調査報告書

### 三原ユキ江 (佐賀)

#### テーマ 近くの山の木でたてものづくり

- 1 近くの山の木で葉が枯らし乾燥をした木材を使用して地元の大工協同組合で建築をしました。
- 2 環境に配慮し、人に易しい建物づくりをまざしました。  
敷地内の既存建築物の古材や石をできるだけ有効活用しました。  
シックハウスに配慮した建築物としました。
- 3 RC でしかできないような建築デザインを木造建築でも可能にしました。

### 山名 千代 (岡山士会)

#### テーマ 環境と健康を考えた住宅

女性建築士の会 ACT を立ち上げる

ACT とは (Amenity Creative Team) 快適な環境を創造する集団で津山市近郊の建築に携わる女性に呼びかけ 1995 年に情報交換の場として設立

- 1 からだにやさしい建材のリストとサンプルづくり
- 2 室内環境についての啓発活動 「環境と健康を考えた住まいづくり講座」の講演会
- 3 住まいの相談窓口開設
- 4 ホームページのリニューアル  
<http://act95.hp.infoseek.co.jp>
- 5 エコロジー住宅の情報発信基地 『自然素材アンテナショップ 結』の誕生
- 6 ワークショップの開催 「有害物質がよりゼロに近い材料」として、木を含めた自然素材の啓発と美しく朽ちていくためのメンテナンス方法

### 星 ひとみ (宮城士会)

- ・ シックハウス対策品も数多くありますが、効果の持続時間や費用対効果をよく見て宣伝文句に踊らされること無く判断する必要があります。
- ・ 計算値通りにはいきません。実際は甘い数値になります。
- ・ 常に疑問を持つことが大事です。

## 全体的話し合い

- ・ 木でも反応してしまう人がいるので、木だから良いとは言いきれない。個人差はある。
- ・ シックハウスの被害はまず北海道から始まり、次に南の方で言われ始めた。被害が無いわけではないが、東北地方は騒ぎ方が少ない。
- ・ 北海道で出来た、実験棟では 50 種類の VOC 検査をしてい。外国では個人のコテージ形式の実験棟だが、今回は共同棟なので個人の持ち込んだ持ち物に反応してしまう場合がある。
- ・ F になって底上げはしたが、反応は多くなってきたように感じる。分析の結果では出ないのだが、何かに反応してしまう
- ・ 悪いものは外に出してしまえば終わりと言うのは、嫌いだ。
- ・ 古いものは時間が検証してくれているので、新しいものよりは安心できる。
- ・ 塗装方法についても考える必要があると思う
- ・ 数値だけでなく体を感じる事が大事なのではないのか。気持ちの良い空間を作ることが大事だと思う
- ・ 24時間換気について、全てに付けるというのはおかしい。又ダクトのメンテナンスが出来ないので、埃が溜まりやすく空気が流れが悪くなる。
- ・ 規制が出来て代替え品でもっと悪くなっている。
- ・ 木の履歴、畳の履歴等に気をつけて業務を行っているが、リフォームパテで反応してしまった事例がある。
- ・ 発症しても生活する場である、寝るところ、食べる場所がちゃんとしていると、生活が出来るようになる。
- ・ 行政、住み手、施工者も一緒に勉強していかなくてはいけない。
- ・ 先のことまで見据え、あまり難しいメンテナンスを提案しても受け入れてもらえない。
- ・ 住み手に対してのメンテナンスの方法を考えていかなくてはならない。
- ・ 新しいものを求めるのではなく、風土に合ったものを使っていく工夫が必要ではないか。
- ・ ライフサイクルコスト CO2 放出量の考え方ももっと広めていく必要がある。
- ・ 測定値だけを評価の基準にするのは間違い。計れないものがまだまだいっぱいある

- ・ 数値を計ることが出来るようになって、問題化してきている。計れないものはないものと見なされて問題にもされていない。
- ・ シックハウスにかかる方で老人は少ないように思うのですがという質問に対して、老人の方も反応している人は一杯います。しかし、シックハウスに対する知識がなかったり、若い世代の人に遠慮して言い出せない状況はあると思いますということでした。  
長瀬 八州余

## ■ 分科会

H 分科会 「集まって住む」の報告

司会：茨城士会

コメンテータ：東京士会の木村ひろ子氏

木村氏は「コレクティブハウスかんかん森」建設に携わり、現在は入居者である。

日本女性が社会的に活動しにくい原因が住まいにある！という考えから、ファミリーが完結するのではなく、自分達だけでは出来ない部分を助け合うことで住まい方をカバーする住まい「コレクティブハウス」を目指した。実際、女性が働きながら自立することの難しさは大なり小なり参加者たちも実感している。コレクティブハウスかんかん森はプライバシーも確保された独立した住戸の集まりで、食事当番が3ヶ月に一度程度回ってくるのを凌げば、後は作ってもらえる。子育て中もいれば高齢者もいる年齢、家族構成混在の北欧型のコレクティブハウス。コモンミールが核なので、入居希望者にはお試しミール制度を採用。

参加者からは集まって住むこと自体にパワーが必要と感じたとか、核家族にとっては世代間交流が出来て良いなど、様々な感想や意見が出された。

河内 美代子



(分科会の風景)

## ■ 平成 16 年全国女性建築士連絡協議会報告

全国女性建築士連絡協議会に参加して

### 1.活動報告

活動報告は東京・愛媛・神奈川・奈良の皆さんによる報告でした。私が特に興味を持ったのは、奈良の『ユニバーサルデザインの建物をめざして-その1-トイレ編-』でした。公共トイレの現状を把握し、設計上特に気をつけたい部分をまとめたものでした。利用者をオストメイトの場合、親子連れの場合などと利用者別に分けたことも参考になる発表でした。

「誰でも使いやすい建物は、又出かけたくなる建物であること。これは公共建物には是非必要なことではないでしょうか？」という最後の問いかけに今後の私たちの使い心地調査にも共通点があるような気がしました。

### G 分科会 「高齢社会」

個人的にとっても興味のある課題でした。他県では介護保険前からの制度であるリフォームヘルパー制度をうまく移行して介護保険が始まってからも継続して高齢者の相談にのるシステムができていました。岐阜は？うむ～まだまだです。高齢者・身障者が気持ちよく生活ができるように建築士としてできることを考えていきたいと思いました。

象設計集団の富田玲子さんの言われた

「五感がフルに活かせること=いい気持ち」と言う言葉が心に響きました。

下川 滝美

## ■ 編集後記

毎日うだるような暑さですね。皆さんいかがお過ごしでしょうか。高校野球も県代表が決定し、益々夏本番というところでしょうか。私は例年通り、モリモリ食べて夏バテ知らず！でこの猛暑を乗り切ろうと思っています。

編集委員 宇佐美 泉  
河内 美代子

(社)岐阜県建築士会

岐阜市司町1番地 岐阜総合庁舎3階

TEL 058-266-5786 FAX 058-266-6867

<http://homepage2.nifty.com/aba-gifu/kensi578@juno.ocn.ne.jp>

女性委員会担当まで宜しくお願い致します。

